

岡山県医療対策協議会 第1回小児（救急）医療対策部会の概要

○日 時：平成20年1月25日（金）15:00～16:30 ○場所：県庁3階第2会議室

○出席者等：別紙のとおり

【患者の動向】

- ・診察は土日に多く集中している。
- ・患者の強い要求も困った問題だ。特に準夜帯にストレスがたまる。政府も対応を考える必要がある。朝から熱が出ているのに夜に診察に連れてくる。
- ・コンビニ感覚とよく言われるが、どういう感覚で親が来ているのか実態を調べる必要がある。
- ・コンビニ化と言ってもはいけない。コンビニは24時間同じ品質のものを同じ価格で提供するが小児医療は昼間行った方が質が高いものを受けられることをPRする必要がある。
- ・患者が全て（基幹的な）病院に来るから困る。
- ・送る側としてはどうしても分からない患者だけを送り込んでいる。
- ・看護職からみても大変なことはよく分かる。適正な受診を促すことも必要だ。
- ・患者教育は大切だ。
- ・セミナーや新聞などを利用してやってはいるが本当に来て欲しい人はあまり来ず効果がいま一つあがらない。

【医師確保】

- ・小児科医師は前回の医師数調査に比べて32名増えたというが勤務医師は大変だ。
- ・勤務医も少しは増えているようだがそれ以上に仕事が増えている。岡山は後期研修医の数なども全国に比べて悪くはないが四国は厳しい状況であり県内だけ増えるという訳にはいかない。
- ・医師確保を考える上では、初期臨床研修がどの病院にどれ位集まっいて、どれ位、県内の病院に残っているかを調べるべきだ。
- ・新しい制度の初期臨床研修を終えた後、後期臨床研修を終えた者も出てくる。小児科医を確保するために財政的な支援をすることも考えるべきだ。
- ・21年から関東地方に研修に行っている人が帰るようになる。岡山に定着してもらうようにしないといけない。
- ・小児科医師が辞めていかないような手だても大切だ。
- ・医師としての生き甲斐も必要だ。サブスペシャリティーが大切、NICU型の病院で2～3カ月勉強するようなことも必要だ。
- ・勤務医は疲れている。常に救急医療をやっている人とそうでない人とギャップがある。不満感がたまっている。夜間も忙しくしている人を尊重していることを手当の面などで示す必要がある。
- ・いかに小児科が疲れないようにするか。そしてその姿を見せることが医師確保につながる。

【女性医師の就業支援】

- ・女性医師の就業確保も大切だ。
- ・病院として女性医が働きやすいようにフレックス制なども取り入れている。
- ・アメリカの調査によると男性は地位とか学問などへの志向が強いが、女性医の場合労働時間がきちんと定まっていることを重視する傾向がある。生活を確保して女性医師を掘り起こす必要がある。
- ・女性医師にも深夜の対応をお願いしたいが、深夜の保育所などもあるがなかなか希望する人はいない。

【県北地域の状況】

- ・真庭圏域の病院に常勤医はいなく入院はできない。内科医が小児救急の研修などを受けて対応している。土日も含め輪番制などで日中は診てもらえるが夜間が問題だ。
- ・5人の医師が2百数十人ほどの患者を診ている。若いから大丈夫だが、医師が高齢化した時やスタッフが欠けた時は心配だ。昼間はいいが夜が問題だ。
- ・高梁地域も小児科医師は4名おり昼間は困らないが休日や夜間は困る。
- ・県南西部、東部は今の小児科スタッフの中でやっていかないといけない。問題は真庭や新見といった県北部だ。

【医療機関の連携】

- ・病院間の連携も必要だ。競争を避ける必要がある。
- ・まわりの病院から夜の診察に参加してもらうような地域の連携体制が必要ではないか。ただし、当直してもらうとなると出す側の病院も大変だ。
- ・事故のリスクなどもきちんと取り決めをしておいて内科医がテレビ画像などによって遠隔の小児科医に相談しながら診断するような病院連携はできないか。
- ・ワークシェアーについての意識も高まっている。複数の病院が曜日を決めて当番をやるなどの試みも始まっている。

【医師派遣】

- ・医師派遣をコントロールする組織が必要だ。需給についてのデータを調べることも必要だ。
- ・県南の病院から県北の病院に派遣するにしても、人がぼんちと行くだけではまわりも疲れる。サポートが必要だ。ボランティア精神だけではなく、行く人や出す病院にもインセンティブが必要だ。
- ・医師派遣は短期的な対策にはなるが、中長期的な対策にはならない。

【全体】

- ・すぐやらないといけないことをまず考える必要がある。県北の真庭、新見・高梁といった地域の小児科医師の確保をどうするか、県北の核となる病院の体制強化を通じて地域の小児科医療を支援することなども必要だ。
- ・短期的な課題だけでなく中長期的な課題についても協議していく必要がある。